

最後の1年間、閉校を惜しむ声をたくさんいただきました。これまで支えていただいた地域の皆様には「感謝」の一言に尽きます。

平成14年に初めて赴任して以来、計8年間山香農業高校に務めました。県下唯一の寮があったこともあり、農業教育と人間教育の両輪が非常にしっかりとっている印象を受けました。学年によって持ち味は違いましたが、どの年の生徒もとにかく元気が良かったです。皆があいさつをし、校歌を歌う声も体育館が割れんばかりで、式典の際は来賓の方が驚かれるほどでした。



校長 田中豊彦さん



福祉ボランティア部 まごのて
ひろち ちえみ ふじわら かずみ しますえ
広地 千恵美さん 藤原 利后さん 鳶末 ののかさん
はしもと あおい きむら まいこ
橋本 葵さん 木村 舞子さん

学友会長 森本一希さん



この1年間、先輩方が繋いできてくれた歴史の最後を私たちが飾るという事で、重いプレッシャーの中頑張ってきました。

「地域の方との交流」をメインに考え活動してきた1年でしたが、最後には御礼パレードや「感謝の集い」を開催することもでき、先輩たちの代から67年間お世話になった地域へ恩返しすることができたと思います。地域の方から「学校が」なくなると寂しい」という言葉をいただいたときは、「山香に来てよかった」と思いました。

福祉ボランティア部(まごのて)は「高齢者の孤立をなくしたい」という思いから、有志によって平成23年に結成された団体です。

放課後や休日を利用して、掃除や花の苗の定植など、福祉施設やヘルパーが請け負うことのできない仕事を担ってきました。結成以来引き受けた依頼は500件以上になります。繰り返し依頼する方も多く、「だんだん馴染みになっていくのが嬉しかったです。」とメンバーは語ります。

「楽しいことだけじゃなくて、辛いことや辞めようと思ったこともあった

また、校内では閉校へ向けた雰囲気作りや、生徒一人一人が寂しい思いをしないような企画を立てることを目標にしました。農業文化祭や収穫感謝祭などの行事を、より工夫を凝らしたものにすることができ、仲間との絆を深めることができたと感じていきます。それぞれの行事には先生方も参加してくださって、楽しい思い出になりました。

きつかった思い出もありますが、3年間の学校生活・寮生活を通して自分自身成長することができたと思います。

けど、そういう時に支えてくれた先輩や部員たちのおかげで今の自分がいるんだなと実感しています。授業以上に学ぶことが多かったと思います。

「利用者様と関われなくなるのは寂しいです。私たちが行くことで笑顔になってもらえるのが嬉しかったです。」これまで利用者様に支えてもらった所もありました。今までありがとうございました。ありがとうございました。

最後の活動では、これまでの利用者者の皆さんに感謝の気持ちをこめて手作りのタオルを贈りました。



平成12年卒 長谷雄一彦さん
昭和49年卒 愛彦さん

「卒業生が地元に出て、農業を継いだりする流れの基礎だったと思う。消えるのは惜しいなあ。」と話す長谷雄愛彦さんは、昭和49年に山香農業高校を卒業しました。息子の一彦さんも同校で学び、大田地域で畜産業を営んでいます。

学校生活では「規律が厳しかったことが印象的だった」と一彦さん。「寮で鍛えられてたから時間の規律はみんなしっかりしてた。(厳しくて)夜中に逃げる寮生もいた。」と当時をふり返ります。1年生男子は寮生活が義務付けられていました。

「当時の友達とは今でもずっとつきあいが続いています。卒業して畜産をしている人とは、仕事で会ったりもする。人とのつながりができたのがよかったです。」



校歌

作詞 安東 董
作曲 幸島 武雄

- 一、光り満つ 山なみはるか
花かおる 丘の学び舎
さやかなる 理想に燃えて
産学に いそいむわれら
かぐわしき その名たえん
ああ母校 山香高校
- 二、星淡き あしたに学び
風わたる 野に技磨く
友愛の 腕を組み
国の基 つちかうわれら
たくましき 力たえん
ああ母校 山香高校
- 三、若き日の 息吹きをこめて
拓きゆく 豊の国原
管農の 誇りも高く
永遠の幸 求むるわれら
新しき 明日をたえん
ああ母校 山香高校



中山香駅

山香農業高校の生徒の皆さんが、年に2回ぐらい駅周辺の清掃活動をしていました。他にも、駅舎の花や座布団も生徒の皆さんに寄贈していただいたもので、ありがたく使わせていただいています。

中山香駅から電車に乗って通学する学生は多いですが、この駅で降りて学校へ通っていく学生の姿が無くなるのは、駅としては非常に寂しく感じます。

卒業生の皆さんには、この駅から3年間高校へ通っていった思い出を忘れないで、これからも活躍していただきたいと思っています。



JR中山香駅 駅長 早野敏治さん